

『院内学級等での実践と病弱支援教育について』

～病院のこどもの権利と子どもの姿～

副島 賢和（そえじま まさかず）

昭和大学大学院保健医療学研究科准教授

○病院内学級（病弱虚弱児教育特別支援学級）について

病院に設置された特別支援学級です。病院に入院している児童の中で、本人・保護者が希望し、医師が許可した病弱・虚弱の子どもたちが通っています。長期入院で入級している子どもで、教室に来ることができない場合は、毎日（教室の子どもの状況により、時間を検討する）ベッドサイド授業を行っています。病院内学級の役割は『子どもたちの発達を保障すること』です。近くの小・中・特別支援学校から担任の先生が訪れ、病棟スタッフの方達とチームとして活動しています。

○大切にしているかわり（副島 2020）

- 1, 発達を保障する（学びとあそび～日常）
- 2, 子どもに戻す（『今』を味わう）
- 3, 不安の軽減（安全・安心を感じる）
- 4, 感情の表出（どんな感情も大切に）
- 5, 感覚を発揮できる（学びを発動する）
- 6, 肯定的な自己イメージを育む（社会的自尊感情と基本的自尊感情）
- 7, 病気に向き合う力を培う（エネルギー）
- 8, 喪失に向き合う力
- 9, 援助希求（ひとりじゃないよ・ひとりでも大丈夫）
- 10, 自立（共に生きる力を持つ）

○肯定的認知と否定的認知

子どもたちは、治療や自分の身体のこと、将来や学校のこと、友だちや家族のことなど、さまざまな不安を抱えて学級に通級してきます。かわりが深まってくると、自分自身に対するイメージを伝えてくれるようになります。「病気になった自分はだめな存在」「入院したことは大きな失敗」「勉強が遅れる。頭が悪くなる。」「家族に迷惑をかけている僕は役立たず」「学校や家族からはなれてひとりぼっち」・・・否定的な自己イメージ（認知）でいっぱいになっています。自分のからだ自分が自分を裏切る経験をしている子どもたちは、いじめを受けているような状態になります。「自分は自分のままでよい」と自尊感情を持てるような状態にはありません。そんな子どもたちが少しでも肯定的な自己イメージ（認知）を持てるようにかかわることが大切であると考えます。そして、いつの日か子どもたちが「今の自分があるのはあの経験があったから…（PTG）」と思ってもらえる種を植えたいという思いでかわります。

そのためには、その子を深く理解する「共感的理解」が必要です。共感的理解とは、その出来事が我が身であったなら、何を感じ何を考えるであろうと想像を巡らせる「徹底的に寄り添う」ことです。

そして、どんなに短いかかわりであったとしても、

***Safety（安全・安心） *Challenge（選択・挑戦） *Hope（将来の希望）**

の三つを大切にしています。頭文字のSCHはSCHoolの最初の3文字なんですね。大きな傷つきのある子どもを理解することについて、考えたいと思います。

○感情表出の理解（小林 2009）

- ・ 怒り：他者や周囲に変わってほしいという「願い」
- ・ 悲しみ：苦境を分かち合ってほしい、助けてほしいという「訴え」
- ・ 喜び：誰かと分かち合うことで加速される
- ・ 恐怖や不安：問題があり、それを解消しなければならないという強い願い

○ 教師の大切な4つのかかわり (小林 2009)

- 本人の好きなこと、得意なことを探りその面で付き合うようにする。
- 活躍の場を与える。
- 本人が安心していられる場所を作る。
- 不安や緊張や怒りや嫌悪などの不快な感情を言葉で表現できるようにする。

○ ケアする人のケア (Dr.Patch=Adams 2008)

- | | |
|------------------|----------------|
| • I love People. | • I am Hero. |
| • Smile | • Karma |
| • Creative | • I can do it. |
| • Science | ＋仲間（あかはなそえじ） |

【プロフィール】

副島 賢和（そえじま まさかず）

1966年、福岡県生まれ。89年、都留文科大学卒業。同年、東京都公立小学校教員として採用され、以後25年間、都立公立小学校学級担任として勤務。99年、東京都の派遣研修で、在職のまま東京学芸大学大学院にて心理学を学ぶ。06～13年品川区立清水台小学校さいか学級（昭和大学病院内）担任。14年4月より現職。学校心理士スーパーバイザー。ホスピタル・クラウン。

北海道・横浜こどものホスピスプロジェクト応援アンバサダー。TSURUMI、東京こどもホスピスアドバイザー。日本育療学会理事。NPO法人YourSchool理事。NPO法人元気プログラム作成委員会理事。

09年、ドラマ『赤鼻のセンセイ』（日本テレビ）のモチーフとなる。

11年、『プロフェッショナル仕事の流儀』（NHK総合）に出演。

20年、YouTube「あかはなそえじ・風のたより」<https://www.youtube.com/watch?v=ndP0l1rhg8k>

【参考文献】

丹羽登 監修 2008 病気の子どもの理解のために

全国特別支援学校病弱教育校長会 （「病気の子どもの理解のために」で検索）

小林正幸他 編著 2009 学校でしかできない不登校支援と未然防止 東洋館出版

副島賢和 2010 「院内学級における通級児童の『感情表出』のための実践」

児童心理2010年 4月号 金子書房

副島賢和 2015 あかはなそえじ先生のひとりじゃないよ

～ぼくが院内学級の教師として学んだこと～ Gakken

副島賢和 2016 心が元気になる学校

～院内学級の子どもたちが綴った命のメッセージ～ プレジデント社

副島賢和 2018 赤はな先生に会いたい！ 金の星社

日本育療学会編著 2019 標準「病弱児の教育」テキスト ジアース教育新社

副島賢和 2020 はなれていても、だいじょうぶ

～今こそ伝えたい、院内学級で教員として学んだこと～ Gakken

副島賢和 2020 End of Lifeにある子どもの教育「学ぶことは生きること」

小児看護2020年 10月号 へるす出版

副島賢和 2020 ストレス時代の子どもの学び 風鳴舎

副島賢和 2021 あのね、ほんとうはね～言葉の向こうの子どもの気持ち～ へるす出版

